

### 3. 前計画の進捗状況の概観と課題

本計画の改訂にあたって、これまでの施策の進捗状況の概観と課題について、3つの基本目標ごとにまとめています（なお管理指標の数値結果については、p122～129を参照してください）。

#### うるおいと安らぎの中で人が暮らせるまち 多摩 —和のまちづくり—（調和）

#### （1）自然環境の保全等

##### 1）みどりの保全・創出

持続性の高い緑地面積の市域に占める割合は、約35.45%に達しています。一方で、相続等による生産緑地等の減少も見られました。

平成14年度以降、約38.9haの公園緑地が創出されました（ニュータウン区域内：31.0ha増、ニュータウン区域外：7.9ha増）。また市民、民間、行政のパートナーシップ体制によるみどりの保全・育成・創出を進める仕組み強化の一環として、グリーンボランティア講座の充実と、市民参加の管理公園数を増やしてきました。

○管理指標の進捗状況	・緑地面積率37%以上：未達成
①管理指標から見た課題	・緑地、公園の量的な確保の目標値の妥当性 ・ニュータウン地区と既存地区の緑のアンバランス
②市行政から見た課題	・緑地、公園の維持更新に要する多大な経費 ・アダプト等の参加者の高齢化 ・緑地、公園の新規の確保に関する公的資金投入の限界
③社会情勢等から見た課題	・生物多様性への取組み（街路樹と公園緑地がつながっている特徴を活かした生物多様性への貢献など、市街化した都市での生物多様性の可能性の有無など） ・在来動植物の保全

##### 2）水辺環境の保全・回復

河川の水質では、生物化学的酸素要求量（BOD）は全ての地点で、環境基準値を満たしました。一方、河川水量の確保や水質改善、地下水涵養、災害の防止などをめざし、雨水簡易貯留槽の設置や透水性舗装の採用などを進めてきましたが、乞田川・大栗川の水量の増量には至りませんでした。また多摩川では多くのあゆが遡上していますが、乞田川や大栗川での魚類の増加傾向は見られませんでした。

乞田川や大栗川では、老朽化した護岸改修において、東京都により親水護岸の整備が進められました。

○管理指標の進捗状況	・BOD環境基準適合率100%以下：達成
①管理指標から見た課題	・水辺環境の回復には水量を増やすことも必要であるが、大規模な造成によりまちづくりが進んできた多摩市では、乞田川、大栗川へ地下浸透水を供給することが困難

②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常気象等に対する都市河川の安全性の確保と自然度の向上との両立</li> <li>・多摩川と大栗川合流付近の自然環境の保全</li> <li>・湧水の保全</li> </ul>
③社会情勢等から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来植物の繁茂と在来植物の保全</li> <li>・外来生物の繁殖（魚類）</li> </ul>

## （２）都市環境の保全等（景観の保全・まちの美化）

地区計画及び建築協定締結地区は、合計で 45 地区（11 地区増）となり、まちの景観の保全の取組みが広がっています。

まちの美化については、ごみのポイ捨ての削減に向けてキャンペーンなどを実施してきました。また、路上駐車・放置自転車の台数も大きく減少しているとともに、駅周辺の喫煙禁止区域の指定により、まちの美化は向上しているといえます。

歴史・文化の保全継承については、学習講座・講演会の開催や、炭焼き・雑木林の手入れなどの体験事業を通して多摩の伝統的生活を体験する機会を提供してきました。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 人当たりの都市公園面積 13 ㎡以上：達成</li> <li>・ 市民参加の管理公園数の増加：達成</li> <li>・ 地区計画決定地区数の増加：達成</li> <li>・ 建築協定締結地区数の増加：達成</li> <li>・ 学習講座等実施数及び参加者の増加：達成</li> <li>・ 展示会事業数及び入場者数の増加：達成</li> <li>・ 路上駐車 of 摘発数の減少：達成</li> <li>・ 放置自転車等の台数の削減：達成</li> </ul>
①管理指標から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駐輪場、駐車場への利用促進を進め、路上駐車台数、放置自転車台数の減少に引き続き努める。</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の取組みにおけるまちの美化の推進の限界</li> <li>・ 都市基盤・ニュータウン内の住宅の更新に伴う景観や環境の保全</li> <li>・ 歴史文化に関する若い世代の講師や後継者の育成</li> </ul>

自然の循環の中で人が暮らせるまち 多摩  
—環のまちづくり— (循環)

(1) 公害の防止

1) 大気汚染の防止

大気汚染関連については、大気改善のため都と連携して自動車排出ガス対策を実施してきました。その結果、特に、二酸化窒素や浮遊粒子状物質は大きく改善されてきましたが、光化学オキシダントについては依然として環境基準値を上回る傾向が見られます。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub>、SPM、CO 濃度：達成</li> <li>• O<sub>x</sub> 濃度：未達成</li> </ul>
①管理指標から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動車のうち、特にディーゼル車排出ガス規制、エンジン・燃料の改良等により二酸化窒素、浮遊粒子状物質等は大きく減少の傾向</li> <li>• 光化学オキシダントは、依然として環境基準の改善の傾向が見られない</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 光化学オキシダントの原因物質でもあるベンゼンを含む VOC（揮発性有機化合物）の事業所等からの排出量の削減等</li> <li>• 市内事業所からの VOC（揮発性有機化合物）発生抑制</li> </ul>
③社会情勢等から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低公害車の普及促進</li> <li>• 公共交通利用の促進</li> </ul>

2) 水質汚濁の防止

乞田川と大栗川の水質について、水素イオン濃度（pH）は各測定地点で環境基準値を超えていました。原因は、藻類の光合成作用に伴う影響が大きいと推測されます。

大腸菌群数についても、各地点とも毎年度、環境基準値を超えていました。原因は、犬や猫や鳥類などの糞便の影響も推測されるようですが、大腸菌は自然界にも多く存在する菌であるため、明確な要因はつかめていません。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BOD 濃度、pH、大腸菌群数：変化なし</li> </ul>
①管理指標から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水素イオン濃度（pH）、大腸菌群数は人為的な要因以外でも変化することが推測されるため、発生経路の把握が求められている。</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設現場や屋外作業における事業所等からの、汚濁物質の排出の抑制（水質異常事故対策）</li> <li>• 河川へのごみの投棄</li> </ul>
③社会情勢等から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業活動における水質異常事故防止に向けた啓発と対策</li> </ul>

### 3) 騒音・振動の防止

道路騒音は、各調査地点で改善されています。新大栗橋交差点付近の騒音レベルも低下していますが、夜間では環境基準値付近にとどまっている状況です。

○管理指標の進捗状況	・道路騒音レベル：未達成
①管理指標から見た課題	・新大栗橋幹線道路での道路騒音対策
②市行政から見た課題	・自動車騒音の常時監視体制
③社会情勢等から見た課題	・自動車騒音による沿道住民への影響

### 4) 有害化学物質対策

市内全域でのダイオキシンは、大気（5地点）・土壌（33地点）全てで環境基準以下でした。大気については、市内1カ所で毎年測定していますが、環境基準以下となっています。

○管理指標の進捗状況	・ダイオキシン類濃度把握地点数：達成
①管理指標から見た課題	・現在の状況の維持及び更なる改善
②市行政から見た課題	・不法投棄、不法焼却の抑制
③社会情勢等から見た課題	・微小粒子状物質（PM2.5：粒径が2.5 $\mu$ m以下の小さな粒子状物質）の環境基準設定に向けた取組み

### (2) ごみの減量・資源の有効利用

ごみ焼却量及びごみの排出量は、経年的に減少しています。

一方、リサイクルについて、再生利用率は目標を達成しているとともに、リサイクル協力店の増加など順調に成果をあげています。

○管理指標の進捗状況	・ごみの排出量20%削減：未達成 ・再生利用率31%に増加：達成 ・ごみの埋立処分量ゼロ：近づいている ・多摩市リサイクル協力店（エコショップ）の数：達成
①管理指標から見た課題	・排出量の一層の減量
②市行政から見た課題	・家庭、事業所からごみとして排出される紙の減量 ・生ごみ、剪定枝等のリサイクルの推進
③社会情勢等から見た課題	・ごみ焼却場での適正処理 ・有害性ごみの分別

### (3) 地球環境の保全とエネルギーの有効活用

市内での電力、都市ガス、プラスチックごみの焼却量をもとに算出した CO<sub>2</sub> 排出量は、過去 3 か年連続で減少しています。多くはごみの焼却から発生される CO<sub>2</sub> の減少によるものです。

都市ガス使用量は、過去 3 年間連続で減少しています。また電気使用量は、平成 20 年度は平成 14 年度比で 2.7% 増となっています。人口の増加、大規模事業所の新設などが要因としてあげられます。なお、電気使用量は、電力自由化により電力供給会社が多様化しており、電力供給量のデータの把握が困難となっています。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ガス消費量 4.8%削減：未達成</li> <li>・市民 1 人当たりの上水使用量 10%削減：近づいている</li> <li>・雨水浸透施設、雨水簡易貯留槽の増加：達成</li> <li>・CO<sub>2</sub> 排出量 4.8%削減：未達成</li> <li>・冷蔵庫、エアコンの不法投棄処理件数ゼロ：未達成</li> <li>・SO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub> 濃度：達成</li> </ul>
①管理指標から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内から排出される CO<sub>2</sub> の把握</li> <li>・電気、ガス使用量の削減</li> <li>・雨水貯留槽設置の推進</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、事業所の省エネ活動の推進</li> <li>・省エネ機器、省エネ改修の促進</li> <li>・公共施設における省エネの推進</li> <li>・雨水流出の抑制</li> <li>・環境負荷の小さい交通</li> </ul>
③社会情勢等から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COP16 以降の取組み</li> <li>・気候変動の危機の顕在化</li> <li>・新たなエネルギー政策の構築</li> </ul>

**みんなが身近な暮らしの中で環境について考え、行動するまち 多摩  
—輪のまちづくり—（協働）**

### （1）人づくり

学校教育に関しては、以前より様々な取組みが行われ、平成 21 年度から市内の全小・中学校において ESD 教育への取組みが進められています。

一方、市の行政としての環境学習に関しては、市民団体との協働により「多摩川源流探検」「多摩市水辺の楽校」など、自然体験の機会が増えてきています。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育の取組みの割合 100%：達成</li> <li>・環境学習事業の実施数、参加者数の増加：増加している</li> <li>・生涯学習市民バンクへの人材登録数の増加：未達成</li> </ul>
①管理指標から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験型の学習活動は活発に行われてきているが、環境学習を支えるリーダー育成は目標から遠ざかっている</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化防止、省エネ等の知識習得から具体的な行動に移すための意識づけ</li> </ul>
③社会情勢等から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大量生産、大量消費型社会から省資源・循環型社会への意識の転換</li> <li>・団塊世代の地域への回帰</li> </ul>

### （2）パートナーシップづくり

自然環境の保全、ごみの減量、みどりの管理など、市民団体等による取組みは、平成 12 年度に比べ、活発になっています。しかしながら、新規会員の伸び悩みや構成員の高齢化などの課題を抱えている団体も見受けられます。一方で、地域住民・学校のほか、市内事業所による清掃活動も進められています。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩市民環境会議の設置と活動：達成</li> <li>・環境子ども会議の設置と活動：未達成</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少社会における市民の役割、行政の役割の再構築</li> <li>・多様な活動主体の連携の促進</li> </ul>

### （3）フォローアップ体制づくり

環境に関する資料は、年々充実しています。また、市の公式ホームページを通じた情報提供についても、大気環境・河川水質調査結果など、各種情報を掲載しています。また、環境に関する専用のホームページの開設はしていませんが、「みどり・環境・農業」「ごみ・リサイクル」の項目を設けて情報の提供をしています。

環境報告書を毎年度作成し、みどりと環境審議会において市民認証を得ています。

○管理指標の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の環境に関する情報資料数の増加：達成</li> <li>・環境マネジメントシステムの確立：達成</li> </ul>
②市行政から見た課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や地域の環境に関する取組みの情報提供の充実</li> <li>・様々な主体（事業者・大学・国・東京都等）との連携など、より適切な情報提供の充実</li> </ul>